

第5章 スガルノさんの大家族

W22-0228 森 安友菜

家族計画プログラム

「多大な注目とともに取り組むべき重大事項」

『不妊手術キャンプ』 ← サンジャイ・ガンジー政権の礎

- ・金銭的インセンティブ
- ・強制避妊手術法
- ・適度のノルマ (1976年から1977年にかけて860万人)

実際に達成されたのは825万人

→ 1977年の選挙で、インディア政権は崩壊。

明示的な政策のある国に、発展途上人口の約85%が住んでいる。

人口増加 → CO2 増による地球温暖化、食糧の増産による水不足

大家族の何が問題か？

マルサス「一国の資源は固定 → 人口増加は国民を貧しくする」

ヤング「HIVの流行 → 出生率低下 → みんなが豊かになる」

しかし… 「出生率高い → 貧しい」とは限らない！

ゲーリー「量と質のトレードオフ」 ← S字曲線・貧困の悪

サカクス「地球全体を幸福にする経済学」

イスラエルの世帯人数調査・中国一人っ子政策・マトラブ地方のプログラム

コロンビア・プロファミリアプログラム

→ 避妊によって母親の健康・教育を長期的に改善

では、なぜ妊娠してしまうのか？

貧乏人は子作りの意思決定をコントロールするのか？

インドネシア 家族計画診療所の数と出生率の相関

マトラブ地方のプログラム 避妊具の提供+訪問による意識改革

→ 圧倒的に需要ワラー 供給だけでは出生率の減少に貢献しない

出生率の減少は診療所の増加とは無関係。

使用率の低下は、アクセス不足の表れとは限らない。

セックス、制服、金持ちおじさん

10代の若者は家族計画サービスへのアクセスが困難

→ 10代の妊娠率はきわめて上昇

エスターらの追跡調査 → 高い平均妊娠率が明らかに

→ 「性的禁欲」こそが間違いない解決法

他2つのプログラム(金持ちおじさんプログラム、制服代負担)

しかし、これらを同時に行くと効果が±ゼロになってしまう。

貧乏人のほとんどが妊娠出産、性行為に関して

意識的にコントロールしている。

HIV感染率の高い高齢男性
「金持ちおじさん」



子どもを産めばきっと結婚して子どもは可。妊娠も悪くないわ。

性教育プログラムは、意外セックスは阻止できるが、承諾を奨励してしまう。とてお父はどらしても「金持ちおじさん」になってしまう。

だれの選択？

妊娠出産嗜好は男女間でかなりの差がある

(男性は妻よりも大家族を理想とする)

ベルーの事例 → 女性の意思が反映されるには、法的、社会的、政治的、経済的地位がある程度必要

社会宗教的規範の要素 → そこから逸脱すると罰を受ける、何が容認されるのかを共同体の中で学ぶ

『貧乏な人々は家族の数をコントロールしているのか？』

No(Yesと言わざるを得ない状況) → (選択の結果) Yes

金融資産としての子供

スガルノさん「子供は“価値のあるキャンブル”」

中国の実験 → 子供が減ると貯蓄が増える

しかし、貧困国のような子供への投資をしない(できない)国では...

『性別選択手術』により人工的に性別構成を変化させる。

バングラの例 → 持参金を減らすため女子を減らす

改革開放初期の中国の例 → 女性の方が(経済的)効率がいい地域では、女子の人口の方が多い (逆に男子を減らす)

家族

1980年代~1990年代の間に、「効率的家庭」モデルに変化

ブルキナファソの例 → 家族間で手持ち資源の最良の使い方に合意することが、効率化への近道

コートジボワールの例 → 家族が資源を得た後、家族内の分配を適正に行わないと意味がない

政策 → 家族に取って代わるというよりはその活動を補い、時にその悪用から守る

《さらに有効な政策》

「子だくさん」の需要(特に男児)をなくす ←

効果的な社会的セーフティーネット(保険、年金)

収益性の高い貯蓄を実現する金融商品の開発

したが、避妊需要も低い。

ex. ブラジルではこれをTVドラマで教えられる。

Pの中の1人くらいは、将来支えてくれるだろう。

伝統的家族の機能の中に内包された暴力

とてお父はどらしても「金持ちおじさん」になってしまう。 → そのためには...? 第2部につづく。

